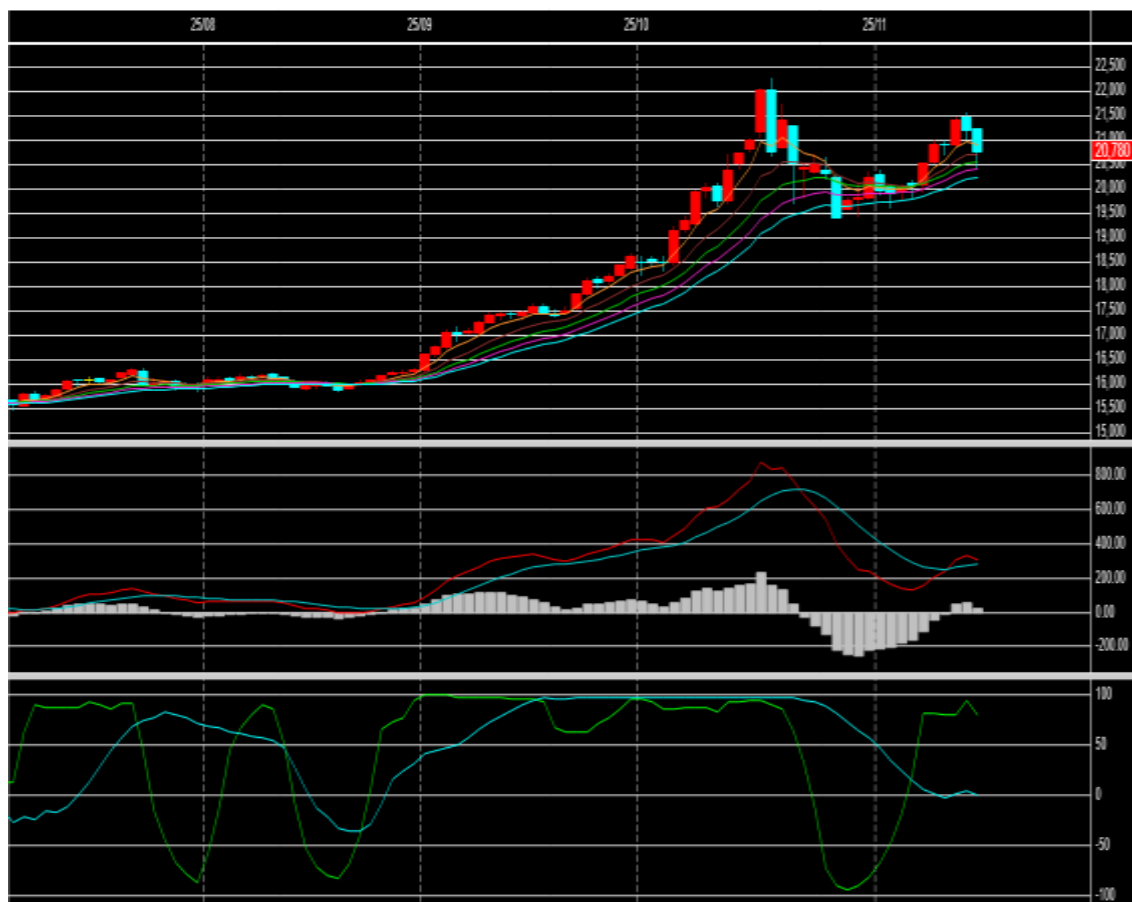


<金標準、5名の連銀総裁 12月の利下げに対する疑心発言・・・>



(出所：オアシス)

下院議会ではつなぎ予算が可決し、最長 43 日間続いた政府機関の閉鎖が解消している。そのため労働統計局は、政府機関閉鎖の影響で延期されていた 9 月の雇用統計について 20 日に公表すると明らかにしている。特に経済指標の発表が行われれば、12 月の FOMC での利下げ確率は高まりと見られ、リスク商品は買われる動きを示し、金標準先物も 21580 円まで高値を試している。しかし週末 2 日間でカシュカリ・ミネアポリス連銀総裁、ハマック・クリーブランド連銀総裁、デーリー・サンフランシスコ連銀総裁、シュミッド・カンザスシティ連銀総裁、ローガン・ダラス連銀総裁と 5 名の連銀総裁が 12 月の利下げに対する疑心的な発言が行われており、市場の利下げ確率が 50%を下回っている。そのため利下げ期待で買われたリスク商品である株価、ビットコイン、債券などが売られており、金標準先物も週末には一時 20405 円まで下落するなど利下げ要因の剥げ落ちを見せるなど、再度 20000 円を意識した値動きが雇用統計の発表である 20 日まで続く可能性が高まったと思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD が下げだし、シグナルは下げ止まっている。RCI は短期が切り下げ、長期は下げ止まっている。特に指数平滑移動平均線のレンジ内に日足が移動し、戻り売りの基調を見せるなど、レンジの下限である 20250 円を試すと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取 1,880,000 円(2025 年 11 月 17 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 102,960 円(2025 年 11 月 17 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>